

## トラベルクリニック開設一年の現状

日本赤十字社和歌山医療センター 感染症内科部

大津 聡子 *Satoko Otsu*

### はじめに

「休み取ってミャンマーに行ってきました」、  
「世界遺産を巡るのが趣味で」。こんな会話を日常生活で耳にすることがそれほど不思議でなくなっている。2012年の日本人海外渡航者数は約1,800万人でその数は増加し続けている<sup>1)</sup>。人口100万人弱の和歌山県も例外ではなく、海外渡航者数は約84,000人(2011年)と増加傾向にある<sup>2)</sup>。近年の特徴として、渡航者が年長者や小児の割合が増加していることや渡航先も欧米から南米、アフリカの村など、渡航目的も観光や仕事だけでなく、登山やサーフィン、またはボランティア活動など、多種多様化していることがあげられる<sup>3)</sup>。

こうした渡航に関する変化に伴い問題となってきたのが、渡航中の健康管理である。健康な渡航者でも渡航先で交通事故など医療機関を受診する可能性はあるし、慢性疾患を有する渡航者が渡航先で環境の変化などで状態が悪化することがある。文献的には、渡航中多い健康問題として心血管疾患と交通事故という報告がある<sup>4)</sup>。さらに、デング熱(写真1)など日本にはない感染症に罹患する渡航者数は増加している<sup>5)</sup>。しかし、渡航者の多くで言葉や医療状況が異なる現地医療機関を受診するのをためらう傾向も認められる<sup>6)</sup>。



【写真1】 デング熱の皮疹  
東南アジアのリゾート地で感染し当科受診した

このような渡航に関する健康問題に対して、「自分の身は自分で守る」という意識が強い欧米では、以前から渡航に関する健康管理を専門に扱うトラベルクリニック(渡航外来)の必要性が広く認められ、その診療体制は整備されている。翻って日本でも渡航者の増加に伴い、近年トラベルクリニックの必要性が認識されてきている。現在日本渡航医学会がトラベルクリニックサポート事業を立ち上げ、トラベルクリニック開設支援を行っており、全国各地にトラベルクリニックが開設され始めている。

今まで和歌山県内に渡航医学を専門とする外来はなく、渡航のためのワクチンや渡航先での健康に関するアドバイスを受けるには他県に行くことが多かった。2012年8月3日、日本赤十字社和歌山医療センターに和歌山県内初のトラベルクリニックを開設した。開設1年を経た本院トラベルクリニックの現状を報告する。

(平成25年8月16日受付)(平成25年11月5日受理)  
連絡先：(〒640-8558)

和歌山市小松原通四丁目20番地  
日本赤十字社和歌山医療センター  
感染症内科部

大津 聡子

## トラベルクリニック＝ 「海外渡航者の健康問題を 扱う専門外来」

トラベルクリニックという言葉聞いて連想するのはどんな診療だろうか？トラベルクリニックは渡航する人、場所、目的、期間によらず、渡航者が渡航中に抱えうる健康問題に対応する外来である<sup>7)</sup>。具体的には、渡航先の感染症情報や健康に関する情報提供、渡航前の予防相談（予防接種、マラリアの予防内服など）、特殊なレジャー（登山やダイビングなど）への助言、渡航時に必要な英文診断書の作成等、基礎疾患に対する渡航前準備の支援、さらに、帰国後の健康相談にも対応する。渡航者数の増加だけでなく、渡航先、渡航目的、渡航者の背景も多様化し、渡航前医療相談の守備範囲は広がっている。そのためにもトラベルクリニックはリスクアセスメント、リスクコミュニケーション、そしてリスクマネジメントを常に念頭に置き、実施しなければならない<sup>8)</sup>。




【写真2】トラベルクリニックの診療室  
診療にインターネットは必須である

## 当院におけるトラベルクリニック の成績

2012年8月から週2回(月、木)完全予約制、自由診療で開始した(写真2)。当院のトラベルクリニックは国際渡航医学の認定資格(Certificate in Travel Health; CTH)を持った医師2名が中心となって診療に当たっている(写真3)。当トラベルクリニックの診療内容は、渡航先の医療情報や安全情報の提供に加えて、渡航者のリスクアセスメントに応じて、必要であれば渡航前のワクチン接種(表1、写真4)、マラリアや高山病の予防内服の処方、留学などでワクチン接種の証明が必要となる場合には英文証明書の発行などを行っている。



【写真3】当院トラベルクリニックの宣伝記事  
渡航前の予防の啓もうは当外来の重要な使命である



**海外旅行と予防接種  
Immunization Records**

氏名：  
Name

厚生労働省 関西空港検疫所  
Kansai Airport Quarantine Station

### 海外旅行と感染症

海外では、日本にはない様々な感染症が流行しています。旅行先で、感染症から自分を守るために、旅行先、滞在期間や期間、旅行内容（観光、娯楽、仕事、ボランティアなど）に合わせた感染症の情報を集め、予防接種を含めた予防についての正しい知識を持つことが重要です。


#### 旅行中の注意

- 飲み水はミネラルウォーターの使用が安全です。
- 殺菌されていないミルクや乳製品の摂取は控えます。
- 川や湖などの淡水での遊びやスポーツは、寄生虫などに感染する可能性があります。
- 蚊や蜂に刺されないために、虫よけスプレーや蚊取り線香を使用しましょう。特に熱帯地域では蚊が媒介する病気が流行しています。
- コンドームは、性感染症予防に有効です。
- 食事前や外出後は必ず手を洗きましょう。

### 海外旅行と予防接種

- 旅行先でみられる感染症に合わせた予防接種を受けましょう（右の一頁表をご参照下さい）。
- 複数の予防接種を受ける場合は、ある程度の日数が必要になります。
- 留学などで現地の学校に就学する際は「麻疹（はしか）」や「ポリオ」などの追加接種が必要な場合があります。
- 国によって入国時に「麻疹」の予防接種証明書が必要な場合があります。

#### 帰国後のケア



感染症にはそれぞれに潜伏期（症状が現れるまでの期間）があり、すぐに見えないことがあります。帰国後、発熱や下痢など体調がすぐれない時は、医療機関を受診するか、検疫所に相談してください。その際、旅行先や滞在期間を必ず申し出て下さい。

詳しいお問い合わせは検疫所まで  
<http://www.forth.go.jp>

【写真4】トラベルクリニックで使用しているワクチンノート：  
ワクチン接種記録を本人に保管してもらうことは非常に重要

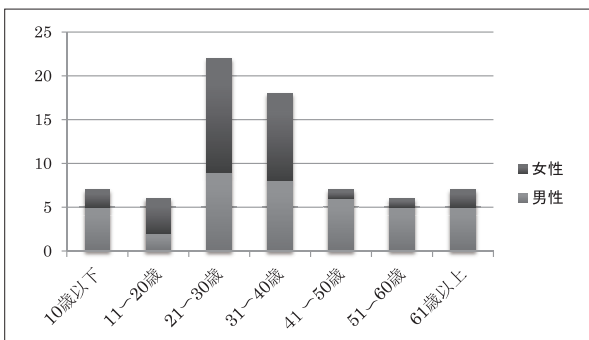
【表1】渡航先別の推奨予防接種一覧（当院トラベルクリニックワクチンノートより）

	黄熱	破傷風	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	腸チフス
接種回数	1回	3回	3回	3回	3回	3回	1回
有効期間	10年	10年	4～5年	10年	4～5年	6～12ヶ月	3年
アフリカ北部		●	○	○		☆	◇
サハラ周辺アフリカ	◎	●	○	○		☆	◇
アフリカ南部		●	○	○		☆	◇
アジア		●	○	○	▲	☆	◇
中近東		●	○	○		☆	◇
北アメリカ		●				☆	
中央アメリカ		●	○	○		☆	◇
南アメリカ	◎	●	○	○		☆	◇
東ヨーロッパ		●	○	○		☆	◇
西ヨーロッパ		●				☆	
オーストラリア・ニュージーランド		●					
太平洋諸国		●	○	○		☆	◇

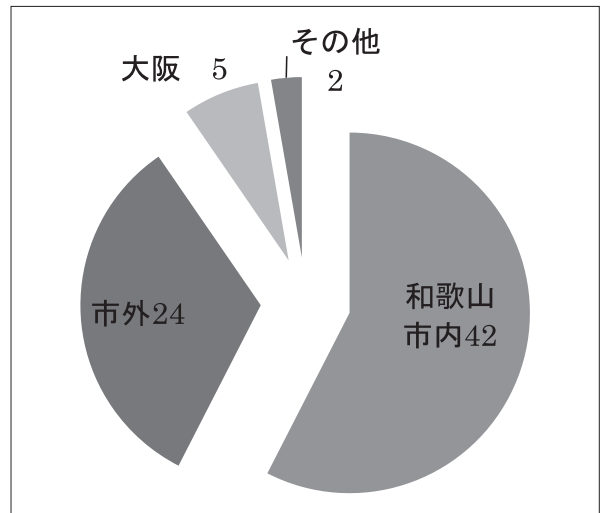
- ◎印：入国の条件となっている場合があります。早めに検疫所までお問い合わせ下さい。
- 印：全ての旅行にお勧めするワクチンです。
- 印：受けておいたほうが良いワクチンです。
- ▲印：雨季(夏季)に水田地帯など農村部を訪れる場合にお勧めします。
- ☆印：野生動物と接触する機会のある場合にお勧めします。
- ◇印：日本ではワクチンを受けることができませんが、注意が必要です。

2012年8月3日か11カ月間の当院トラベルクリニックを受診したのべ受診者数は146名、初診は73名、男性40名、女性33名であった。受診者の年齢は中央値34歳(0歳-70歳)で、20代から40代が最も多かった(図1)。受診者の居住地は73名中42名(57%)が和歌山市内で、和歌山市外や大阪も受診していた(図2)。受診から渡航までの期間は中央値35日(3日-209日)で、平均受診回数は2回(1回-5回)であった。渡航目的地域別にみると、東南アジア22名、インド含む南アジア12名、中国6名、アフリカ9名、中南米13名、アメリカ7名、トルコを含むヨーロッパ5名、オーストラリア1名、世界一周3名であった(図3)。渡航目的は、仕事34名、観光15名、帯同家族11名、留学7名であった。初診者73名中44名に渡航歴があり、受診目的はワクチン接種61名、高山病予防薬処方5名、マラリア予防薬処方5名、診断書作成5名、渡航先情報の相談12名であった。当院トラベルクリニックを受診した理由は多彩であったが、主な理由を表2にまとめた。当院トラベルクリニックでは現在認可ワクチンしか扱っておらず、腸チフスワクチンなど未承認ワクチンは取り扱っていない。トラベルクリニックで接種したワクチンはA型肝炎のべ50本、B型肝炎のべ31本、狂犬病のべ25名、破傷風のべ16名で、3種混合、日本脳炎、麻疹風疹ワクチンなどであった(図4)。

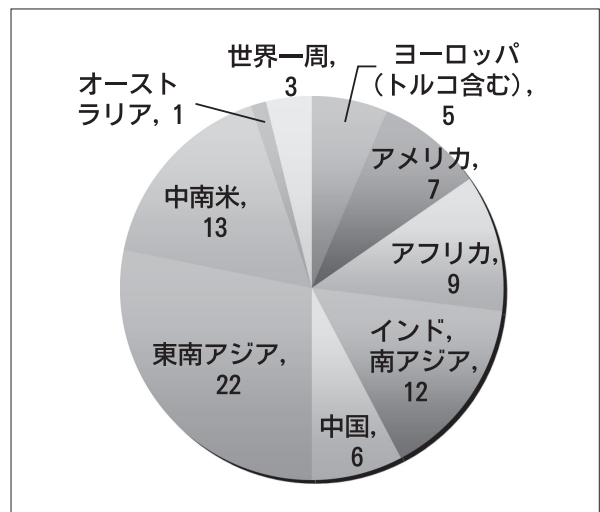
【図1】受診者年齢構成



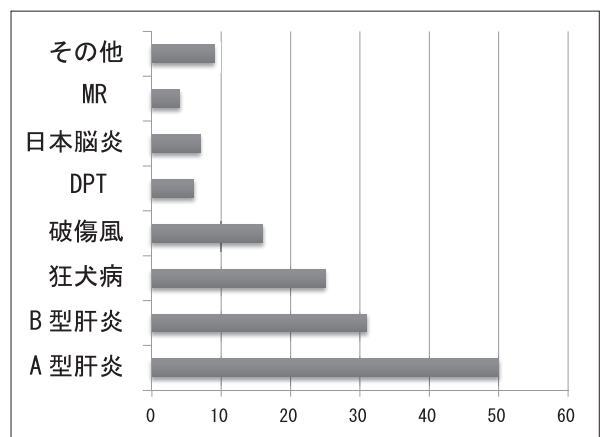
【図2】受診者出身地



【図3】渡航先



【図4】接種ワクチン (73名中 重複あり)





【表 2】トラベルクリニックを受診した理由 例

年齢	渡航先	受診理由
50代	香港	初めての海外旅行. 注意事項を知りたい
30代	ネパール	帯同家族として必要な準備
10代	アメリカ	留学に必要なワクチン接種
60代	インド	トレッキングに行くため, 高山病の予防薬希望
30代	コンゴ	マラリア予防薬希望
20代	セネガル	ダンスの勉強に行くが親が心配している.
60代	ルワンダ	糖尿病治療中. ボランティアに参加したい.
30代	ベトナム	ウィルスの研究をするため渡航. 必要なワクチン接種.

## 渡航先の情報を得るための情報源

渡航する際には、現地の基本的な知識に加えて治安や健康に関連する情報など、事前に入手しておくことはとても重要かつ必須であり、当院トラベルクリニックではインターネットでリアルタイムに現地で流行している疾患や必要なワクチンなどの情報を随時収集している。当トラベルクリニックで活用している主なウェブサイトを下にまとめる。

### 厚生労働省検疫所 FORTH

<http://www.forth.go.jp/>

### 外務省在外公館医務官情報

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/>

### 米国 Center for Disease Control and Prevention (CDC) Travelers' Health

<http://wwwnc.cdc.gov/travel>

### Fit for Travel

<http://who.int/ith/en/>

### WHO International Travel and health

<http://who.int/ith/en/>

### 日本渡航医学学会

<http://www.tramedjsth.jp/>

### HealthMap

<http://healthmap.org/en/>

## 今後の課題

当院のトラベルクリニックを受診者数はまだ少ない。その理由のひとつに、渡航前医療相談の価値が広く知られていないことがあげられる。実際、トラベルクリニックの外来において問診をすると、慢性疾患など既往のある渡航者に関係する医療従事者側が渡航前医療相談の必要性を理解していない状況に遭遇する。これは日本だけの状況ではなく、欧米のように渡航外来が一般的に認知され、渡航者数が増加していても、文献的には渡航者の10~15%しか渡航前にトラベルクリニックを受診しないとされている<sup>9)</sup>。今後トラベルクリニック受診者数を増やしていくには、渡航前医療相談の価値を広く理解してもらえるよう、渡航者だけでなく学校、会社、旅行業界、そして医療従事者に積極的に広報する必要がある。また、受診者の満足度を高めるためにも、トラベルクリニックで提供する医療の質を担保することは絶対条件であり<sup>10)</sup>、常に最新の海外の医療情報、感染情報を入手する努力を怠らないように努力を続けるべきである。

現在当トラベルクリニックで接種できるワクチンは国内で認可されているワクチンに限っている。A型肝炎ワクチンや狂犬病ワクチンは慢性的に全国的に品薄で、今後受診者が増加した場合には供給が非常に困難であると見込まれている。また、世界には日本では認可されてな

い多種類の感染症に対するトラベルワクチンも流通している。包括的なトラベルワクチンが接種できる体制を目指すならば、今後国内で認可されていないワクチンの導入も検討しなければならないかもしれない。

## まとめ

日本赤十字社和歌山医療センターでトラベルクリニックを開設して1年が過ぎた現状をまとめた。和歌山県でのトラベルクリニックのニーズは低いであろうという開設当初の予想を裏切り、トラベルクリニック受診者数は徐々に増加している。当院のトラベルクリニック受診者の大半は「ワクチンを受けたい」という理由であったが、そのほかにも多彩な理由のもと受診していた。慢性疾患など既往を持つ受診者は3割で、受診者の中には渡航先の医療状況や安全情報など全く知らない人も見受けられた。このように受診者の渡航先や受診目的も多岐にわたり、当院でトラベルクリニックを開設した意義はあったと思われる。

渡航前に「自分の身は自分で守る」という意識をある程度持つことは渡航先での安全管理のためにも重要である。渡航で必要となる予防は多種多様で、一人一人異なる。当院トラベルクリニックでは渡航者の渡航計画に応じて適切にリスクとベネフィットを評価し、必要な予防の知識を正しく説明し、それを実践してもらえるように、渡航前のワクチン接種だけでなく、渡航先の衛生状態や交通事故、性感染症を含む感染症全般についての情報など渡航に関わる包括的なリスクについても説明できるような体制を整えている。必要に応じて渡航に関する健康問題を扱う専門外来である県内唯一のトラベルクリニックを是非積極的に活用していただきたい。

## 文献

- 1) 日本政府観光局(JNTO).  
(アクセスした日: 2013. 8. 12)  
[http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data\\_info\\_listing/index.html](http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/index.html)
- 2) 一般社団法人日本旅行業協会.  
(アクセスした日: 2013. 8. 12)  
<http://www.jata-net.or.jp/data/stats/2012/09.html>
- 3) 数字が語る旅行業 2012.  
(アクセスした日: 2013. 8. 12)  
[http://www.jata-net.or.jp/data/stats/2012/pdf/2012\\_sujryoko.pdf](http://www.jata-net.or.jp/data/stats/2012/pdf/2012_sujryoko.pdf)
- 4) MacPherson et al, JTM. 2000 ; 227-233
- 5) Nakamura N et.al. WPSAR.  
2011. 2. 3. 002.  
(アクセスした日: 2013. 8. 12)  
[www.wpro.who.int/wpsar](http://www.wpro.who.int/wpsar)
- 6) 海外日本人長期滞在者の疾病構造に関する調査研究.  
(アクセスした日: 2013. 8. 12)  
[http://www.rofuku.go.jp/Portals/0/data/0/johac/2006\\_b-06.pdf](http://www.rofuku.go.jp/Portals/0/data/0/johac/2006_b-06.pdf)
- 7) 氏家無限, 専門家に相談すべき疾患 渡航外来総論. Medicina 2012 ; 49 : 1772-75
- 8) 近利雄, 渡航前医療相談と渡航用予防内服・予防接種の選択.  
日本渡航医学会誌. 2010 ; 4 : 30-33
- 9) Jay S. Keystone et.al.  
Travel Medicine 13 th edition.
- 10) 濱田篤郎, トラベルメディスンと海外勤務者の医療. 海外勤務と健康.  
2006 ; 24 : 2 - 5